

第11期生紹介

第11期生は、イチゴ栽培希望者5人、ナス栽培希望者2人の計7人です。

かまち つとむ
蒲池 勉

就農支援センターの説明会や周りの生産者の方の話を聞いて入所を決めました。1人前の生産者になれるよう、頑張ります。



かむら つばさ
嘉村 翼

大好きなイチゴへの情熱により入所を決めました。地域や社会に貢献し、高効率で高生産を目指していきます。



たなか いっき
田中 逸輝

自然に触れ合いながら生産者や農業関係者と関わる中で農業の素晴らしさを知りました。次は農業を広めていく立場になりたいです。



はらだ のぞみ
原田 望

生産者の園地で働いている中で、自分でしたいという気持ちになり、入所を決めました。1年間しっかり勉強し、頑張ります。



ふじよし こういちろう
藤吉 弘一郎

自然と接する仕事に興味があり、生産者になろうと決めました。高品質なイチゴを作れるよう頑張ります。



えがみ きっこう
江上 吉航

小さい頃から農業が好きで、就農しようと決めました。1年間の研修では、しっかり農業に打ち込みます。



とくなが たかひろ
徳永 貴大

身内が近くにいることもあり、福岡市内から移住してきました。知識や技術の習得を頑張ります。



1年間の研修を通して、地域の担い手になれるよう全力で頑張しましょう！



第10期生退所式



第10期生7人が5月30日、新規就農者としての第一歩を踏み出しました。

第10期生は、野中公彦組合長から1人ずつ修了証書を授与されたあと、研修成果報告を発表。研修を振り返り、感じたことや就農への意気込み、今後の課題を報告しました。

野中組合長は、「仲間と協力しながら高品質出荷のために勉強することを忘れず、持続可能な農業を進めてほしい」と激励の言葉を贈りました。

1年間を振り返って

- 失敗を経験したことで就農後に同じ過ちをしないよう、自分に適した対処方法を考えることができた。
- 実際に作業することで体で覚えることができ、自身の課題を見つけることができた。
- 親身に相談に乗っていただいたり指導してくださった先生方、JA職員にとっても感謝している。

- 講習会での現地巡回や先輩のは場を見学できたことで自身のほ場や作業スピードなどを比較することができ、勉強になった。
- 自然と向き合う姿勢や仲間との協力の大切さ、「育てる」ことの奥深さに気づくことができた。
- 同期に恵まれ、プライベートも充実して過ごすことができた。

就農支援センター第11期生入所！ 新たなメンバーが就農の道へ！



JA就農支援センターでは、6月から新規就農を目指す第11期生の研修が始まりました。今年はイチゴ栽培希望者5人、ナス栽培希望者2人が入所。1年をかけてJA営農指導員の他、吉田幸雄さん(イチゴ担当)、高山宗茂さん(ナス担当)を講師に、栽培管理について学びます。また、農業経営についてはJAや八女普及指導センターなどが一体となって座学を行います。研修終了後はそれぞれJA幹旋の遊休ハウス等を活用し管内で就農する予定です。

就農支援センターとは？

優れた農業の担い手の育成や地域農業基盤の維持発展に取り組むための施設として、JAふくおか八女は平成27年に建設しました。研修棟や格納庫の他、栽培用ハウスや育苗・採苗施設などを有しています。現在55人が卒業し、JAが幹旋した遊休ハウスなどを活用して就農しています。



研修の様子

